

勅使 正六位上 粟田朝臣憲景

〔玉海〕治承五年二月七日甲申、午刻典藥頭和氣定成參上、依召也、令見姬君御前身、聊赤小瘡出故也、所勞之體、疔氣相交、但不及殊大事、歎云々、今夜漏刻博士憲成修土公、鬼氣祭、

〔吾妻鏡二十〕建曆二年四月六日壬午、將軍家御病惱、而小御所東面於柱根、花開、仍可行天地災變、鬼氣等祭之、由相州令申給之、

〔吾妻鏡四十二〕建長四年八月六日戊午、欲有御出之處、御惱之間、延引、仍被行御祈禱、泰山府君晴茂、鬼氣爲親、靈所七瀬、晴元、文元、晴長、晴秀、以平國高重氏、土公、晴秀等云云、

靈氣道斷祭

〔吾妻鏡二十九〕文曆二年嘉禎元年十二月廿二日、被行御祈等、中靈氣道斷祭、陰陽助忠尙、

〔續史愚抄後桃園〕安永八年十月二十八日戊寅、御惱危急、陰陽頭泰榮、奉仕靈氣道斷祭於私館、今夜

有群鴉啼、愚紳

解返呪咀祭

〔伊呂波字類抄諸社〕解返呪咀祭、以御衣祭之

〔枕草子二〕心ゆくもの略中

ものよ、くいふをんやうじまて、河原に出て、す。そ。の。は。ら。へ。したる、

〔枕草子春曙抄二〕すそのはらへ 呪咀の祓にや、人に職神をよせられて、のろはれたる事の、災

難なきやうにと、解除する也、中臣祓を呪咀怨敵疾病消除の祓と、卜部の家に用る類なるべし、

〔小右記〕萬壽四年十二月二日戊辰、聊有夢相、見咀呪氣、仍以恒盛令解除、

〔吾妻鏡三十三〕曆仁二年元應元年十月十七日癸丑、爲二棟御方御産平安御祈、被行七座呪咀祭、維範

親職、資宣、晴貞、晴平、廣資、範定等奉仕之、

〔吾妻鏡三十六〕寛元三年二月廿一日丙戌、重御祈、泰貞奉仕呪咀祭云云、

〔伊呂波字類抄諸社〕百恠祭、已上見延喜式

百恠祭